

三宮 十五郎 議員

日本共産党
弥富市議団

市民と国民の生命を守れ 憲法第9条の解釈改憲を許すな

問

集团的自衛権の行使について、日本を戦争する国にしようとする憲法の解釈変更や第9条改憲をさせないために、国民と一番近い政治に関わる、自治体の首長として、国民と市民の声を反映し、安心・安全の国と市町にするために積極的な役割を果たされたいと考えるが、市長の見解を尋ねる。

憲法第9条の解釈改憲を急ぐべきではない

答 市長

憲法第9条には、戦争と武力による威嚇、または武

の解釈改憲について、しっかりと注視をしていかななくてはならない。私は、第9条を守っていきたいと考える。

原発から市民を守るために

問

5月21日、福井地裁で大飯原発の再稼働は認めない判決が下されたが、原発により国民の命と安全を脅かすことをやめさせることについて、市長の見解を尋ねる。

原発の再稼働は早急に廃止の方向へ導くべき

答 市長

この判決が下され、今までの原発の安全神話が完全に否定されたかと考える。この判決は、多くの国民が普通に考える、その結果であろうと思う。国民の命を守る判決ということが言えるのかもしれない。このような観点に立ち、原子力発電の再稼働につい

ては、もう一度しっかりとした協議、議論を重ねながら、早急に廃止の方向へ導いていただければという基本的な考えを持っている。

東名阪弥富インター隣接避難場所となる運動公園を

問

愛知県が発表した南海トラフ想定津波、堤防沈下による被害想定は、この地域に住む者としての備えと対策の大切さを改めて求められている。

宮城県旧北上川河口周辺とよく似た地形の本市では、地震による液状化などにより、地盤が1m前後沈下した東北各地の事態が心配をさらに大きくする。異常気象による巨大台風、高潮、地震による津波災害とあわせて、ゼロメートル災害から市民の生命をどう守るかは喫緊の課題だという提起がされている。

本市の防災対策の最大の弱点は、人口に比べて緊急避難場所が極めて少ないこ

具体的な考えをお聞きし、意見調整をさせてほしい

答 市長

とである。そのため、一定の高さがあり、陸上交通でも孤立しないことが考えられる東名阪弥富インターに隣接する場所に、一定の高さがあり、全市を対象にした規模の運動広場があることは、本市全体の避難場所不足を解消することとなる。また、定住を希望する市民がふえていることを考えると、市民の信託に応えるためにも本格的に検討していただくことが今本市の防災対策のかなめの一つになると思うが、市長の見解を尋ねる。

弥富インター周辺に対して、一度、三宮議員と別時間を設け、具体的な考えをお聞きして、しっかりと理解をし、東名阪のどのような場所に具体的に設置していくかということについて、少し意見調整をさせていただきたい。